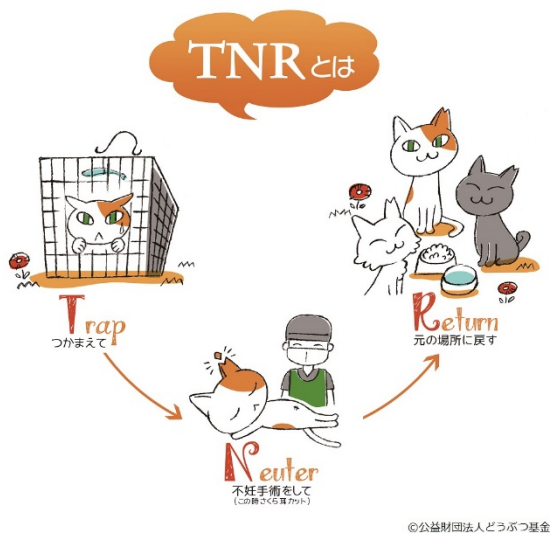


橋本市さくらねこTNRプロジェクト 実施報告書

2020年度



主 催：公益財団法人どうぶつ基金

申請者：和歌山県橋本市

会 場：橋本市環境美化センター

和歌山県橋本市隅田町中島1056-4

期 間：2020年11月17日

事業概要

申請者：橋本市
協力団体：はしもとさくら猫の会 和歌にゃんず
日程：2020年11月17日（火）
場所：橋本市環境美化センター
執刀医：山口 石渡
参加橋本市職員数：5名
市民ボランティア参加数：18名（最大時）
対象猫：地域内の飼い主のいない猫
実施数：オス25匹 メス30匹

スケジュール

日付	時間	
11/17	8：30～ 9：00 17：00	朝礼、ミーティング 持ち場や役割分担の説明など 手術開始 手術終了 ※術後の猫の管理等（地元ボランティア担当）
11/18	午前中～	猫のリターン開始（地元ボランティア担当）

申請の背景・必要性及び目的

橋本市は、2018年3月にどうぶつ基金の協働行政として登録し、市をあげて「さくらねこTNR」に取り組んできた行政であり、「さくらねこ無料不妊手術事業」の行政枠チケットを使用し、市内のボランティアと協力して随時不妊去勢手術を行っている。

しかし、市内各所から野良猫の糞害や車への引っ掻き傷等に対する苦情が多数寄せられるなど、行政枠チケットのみでは追いつかない状況となっていることから、橋本市と協力団体の代表から、どうぶつ基金へ市の現状について相談があった。

橋本市および協力団体の代表からの現状の聞き取りを経て、現在苦情が寄せられている地域の猫たちに出張手術による一斉TNRを決定。その後、随時発生する新たな野良猫については「さくらねこ無料不妊手術事業」の行政枠チケットによるTNR活動を継続することで合意した。



ボランティア数 18人(最大時)



捕獲・運搬

行政と協働するボランティア団体および市内各所の餌やりさんが協力し、手術前の3日間で対象となる猫の捕獲作業を実施。車両の手配や、手術場所・リターンする場所までの運搬作業もボランティアによって行われました。

手術場所では、猫の特徴を確認する、体重を計るなどの個体管理のサポートもお願いしました。



個体管理



手術前の準備、術後の見回り、器具の洗浄など

手術当日は、ボランティア18人、行政スタッフ5人の総勢23人が参加。

獣医師やどうぶつ基金スタッフの指示のもと、手術前に必要な毛刈りなどの準備をお手伝いいただいたほか、術後の器具を洗浄したり、術後の猫の様子を確認したり、リターンに向けてケージの準備をするなど、息つく暇もないほど大忙しでした。

橋本市の現場では、行政とボランティアの連携が非常にうまくとれており、会場の雰囲気もTNRへの意欲にあふれていました。ご参加いただいたボランティアの方々には、数多くの作業に積極的に取り組んでいただき、トラブルもなくスムーズに手術を終えることができました。

手術数

	オス	メス	耳カットのみ	計
11月17日	25	30	0	55

【捕獲数】 55頭

【手術実施数】 55頭 内訳：オス25頭、メス30頭（内妊娠0頭）

処置内容

不妊手術（オス・メス）、3種混合ワクチン、補液、

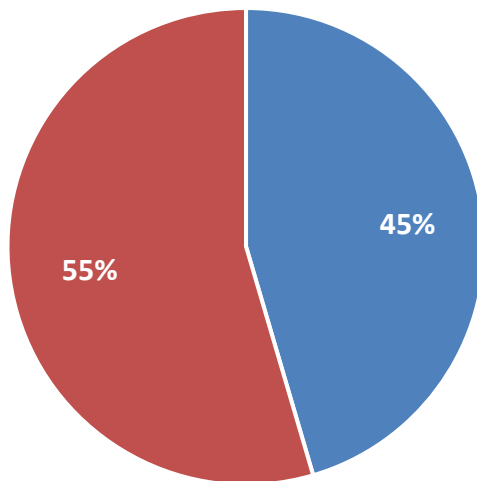
ノミ・ダニ・回虫の駆除（レボリューション）、負傷治療など

【診療以外】耳先のV字カット（さくら耳）、爪切り、耳掃除、ブラッシングなど

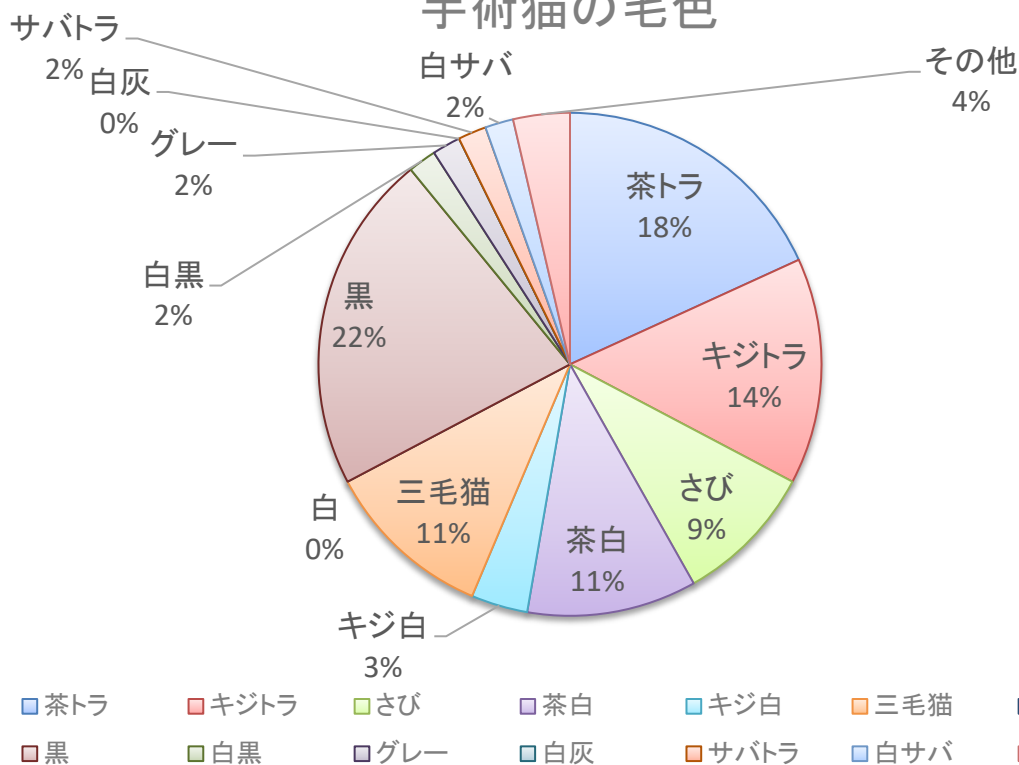


橋本市 手術猫の性別

■ オス ■ メス ■ 耳カットのみ



手術猫の毛色



どうぶつ基金 執刀医：山口、石渡



エキスパート獣医師の手にかかれば、傷口もわずか1cmほどで済みます。
これならリターンする時も安心です。

どうぶつ基金初の和歌山県での出張手術となりましたが、結果は大成功でした。トラブルもなくスムーズに終了することができたのは、準備段階から積極的に参加いただいた橋本市役所の皆様、そして、現地ボランティアの方々のおかげです。この場を借りて心より感謝申し上げます。

今回、手術の対象となったのは、多くの苦情が寄せられた地域で暮らす猫たち。当初50頭を目標としていましたが、最終的に55頭が「さくらねこ」となりました。未手術の猫が少し残っていますが、多くの猫が不妊手術を終えたことで糞尿被害なども減っていくでしょう。地域の方々には、どうか彼らを温かく見守り、共生の道を模索していただきたいと切に願います。

手術当日は、橋本市の平木市長が激励に来られるなど、市をあげて小さな命を守り共存してくのだという気概を感じ、獣医師、スタッフともに大変やりがいを感じた現場でした。

今後は未手術の猫に対する早急なTNRが必要です。この流れを止めないよう、どうぶつ基金は今後も橋本市とともに協働してまいります。



当日、参加者に激励の挨拶をされる橋本市の平木市長(右)と山口獣医師

橋本市で行われた今回の出張手術は、以下のメディアに取り上げられました。

- NHK NEWS WEB 『橋本 野良猫に不妊や去勢手術』
- 朝日新聞DIGITAL 『地域を見守る「さくらねこ」に不妊手術』
- 朝日新聞 『地域を見守る「さくらねこ」に 橋本市が野良猫に不妊手術』
- 高野山麓 橋本新聞 『さくらねこ、幸せにね@新型コロナ禍～不妊出張手術』
- 産経新聞 『野良猫に不妊、去勢手術 元に戻し地域で見守る』

朝日新聞デジタル > 記事

地域で見守る「さくらねこ」に不妊手術 和歌山・橋本

高田純一 2020年11月18日 10時00分

シェア ツイート ブックマーク メール 印刷



地域で捕獲された手術前の猫=2020年11月17日、橋本市馬田町中島、高田純一撮影

野良猫を増やさないようにしようと、和歌山県 橋本市は17日、特定の飼い主はいないが、地域住民にエサやりやトイレを管理されている「地域猫」の不妊・去勢手術をした。その目印として耳の先を桜の花びらのようにカットし、「さくらねこ」として再び公園など一定の場所に戻され、地域の人たちに見守られながら暮らすという。

市内ではエサやりなどが原因で野良猫が増えたため、ふんや尿の臭い、発情期の鳴き声で市に苦情が昨年で約300件寄せられた。市は、3年前から公益財団法人どうぶつ基金（兵庫県 芦屋市）を活用し、さくらねこを増やしているが、新型コロナウイルスの影響で手術を無料とする大阪市内の協力病院が受け入れを自粛。手術が追いつかなくなった。

このため、市は同基金に獣医師の派遣を依頼し、地元で手術をすることにした。この日、おりを仕掛けて捕獲された猫50匹以上が市環境美化センターに持ち込まれ、県

外の獣医師2人が手術した。「はしもとさくら猫の会和歌にゃんず」副代表の土井裕美子さんは「まずは手術をして繁殖を抑えながら、地域の理解も得ていきたい」と話している。（高田純一）



不妊・去勢手術を受け
る野良ネコ橋本市

野良ネコに不妊・去勢手術 元に戻し地域で見守る

野良ネコに不妊・去勢手術を施し、元の場所に戻して地域で見守る取り組みが、橋本市で行われた。野良ネコは、繁殖力が強く、餌を求めて、市内の公園や住宅地などに出没する。市は、3年前から公益財団法人どうぶつ基金（兵庫県 芦屋市）と協力し、野良ネコの不妊・去勢手術を進めてきた。

市は、3年前から公益財団法人どうぶつ基金（兵庫県 芦屋市）と協力し、野良ネコの不妊・去勢手術を進めてきた。この日、おりを仕掛けて捕獲された猫50匹以上が市環境美化センターに持ち込まれ、県外の獣医師2人が手術した。「はしもとさくら猫の会和歌にゃんず」副代表の土井裕美子さんは「まずは手術をして繁殖を抑えながら、地域の理解も得ていきたい」と話している。（高田純一）



公益財団法人どうぶつ基金

橋本市 平木 哲郎 市長

橋本市役所の皆様

はしもとさくら猫の会 和歌にゃんず

市民ボランティアの皆様